

※解答にあたっては、句読点・かぎかっこ等も一字分として数えること。

- 【一】次の各文の——部のカタカナをそれぞれ漢字に改めなさい。
- 1 面談をナゴやかに進める。
 - 2 写真集をシュッパンする。
 - 3 紙面をサいて特集を組む。
 - 4 身をコにして働く。
 - 5 会長にシユウニンする。
 - 6 山頂からガンカを見下ろす。
 - 7 試合では常にサイゼンを尽くす。
 - 8 国のスミやかな対応が望まれる。
 - 9 選挙のトクヒヨウ率を発表する。
 - 10 オオムギを収穫する。

【二】次の文章は、伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』の一節です。これを読んで、後の問いに答えなさい。

難波さんは、自宅によくスパゲティを食べるのでレトルトのソースをまとめ買っています。ソースにはミートソースやクリームソースなどいろいろな味がありますが、すべてのパックが同じ形状をしている。つまり一人暮らしの難波さんがパックの中身を知るには、基本的に開封してみるしかありません。ミートソースが食べたい気分なのに、クリームソースがあたってしまったります。

はたから考えれば、こうした状況は一〇〇パーセントネガティブ(注・否定的。ポジティブの対義語)なものです。でも難波さんは、①これを単なるネガティブな状況とは受け取りません。食べたい味が出れば当たり、そうでなければハズレ。見方を変えて、それを「くじ引き」や「運試し」のような状況として楽しむのです。「残念というのはあるけど、今日は何かかなと思って食べたほうが楽しいですよ。心の持つて行き方なのかな」「思い通りにならなくてダメだ」「コントロールしよう」という気持ちさえなければ、楽しめるんじゃないかな。

つまり難波さんは、見えないことに由来する自由度の減少を、ハブニングの増大として②ポジティブに解釈しているのです。「情報」の欠如を、だからこそ生まれる「意味」によってひっくり返しているのです。

難波さん以外の視覚障害者からも、似たような「ひっくり返し」を聞いたことがあります。たとえば「回転寿司はロシアンルーレット(注・一発だけ弾丸の入った拳銃の引き金を順番に引いていくゲーム)だ」という説。お寿司には香りがほとんどありません。見えない人は、目の前を通り過ぎる寿司が何のネタかを確認することができないのです。もちろん、お店の人に頼んで食べたいものを握ってもらうこともできます。

でも、その状況をあえてゲームとして楽しむこともある。まず皿をとってみて、食べてみて、何のネタかを当てるのだそうです。同様の見方をあてはめれば、自動販売機もおみくじ装置と化します。なにがでるか分からないままボタンを押してみる。手軽に「今日の運勢」を試せます。

あるいは、こちらはふたたび難波さんの発言ですが、都会の複雑した道を歩くことを「お化け屋敷」と形容していました。難波さんは、リハビリ期間を終えた後、見えていた頃に住んでいた自宅で一人暮らしを再開しました。ところが、同じ町なのに駅までの道のりがそれまでとは全く別のものになってしまった。まだ「見えない世界の初心者」だったために、歩道に止めてある自転車や、思いがけない突起に、いちいちドキッとさせられていたのでしょう。「富士急ハイランドに最悪戦慄迷宮という、一度入ったら何時間も出られないお化け屋敷があるんですが、毎日があんな感じでしたよ(笑)」。

③最初にこうしたユーモアに触れたとき、私は本当に頭がぐらくらするような衝撃を受けてしまいました。なぜなら、私が思い込んでいた障害者のイメージとあまりにもかけ離れていたからです。もちろん、すべての障害者がユーモラスというわけではないでしょうし、あるときはユーモラスな人が別のときにはそうでないこともあるでしょう。もしかしたら家にひきこもっていたい時間の方が長いかもしれない。そのことは承知のうえで、でも率直な感想として、そうしたユーモアが私の障害

者に対するイメージを覆したのは事実でした。

まず、障害のある人の発言で笑う、という経験が新鮮でした。そのころはまだ、見えない人との関わりが浅い時期だったので、無意識のうちに自分が「ホスト役(注・もてなす役)」の気分でした。ところが、見えない人が場を盛り上げ、自分がそれに乗っかるような形になった。その関係が新鮮でした。

もともと、関わりが深くなるにつれて、視覚障害者で話し上手な人や話し好きな人が意外と多いことを知りました。ある人は、「ぼくたちにとつて表現のツールは限られている。だから言葉で相手の心をつかめるように努力している」と語っていました。確かに、そのように心がけているうちに自然と話し上手になった人が多いのかもしれない。

A 木下路徳さんも、小学生で見えにくくなったときに、友達と輪に入りたい、こつちを向いてほしいという気持ちから、話術で人を笑わせられるようになるうと思つたといひます。そこで木下さんがとつた行動は、ラジオを聞くことでした。ラジオの語りはまさに視覚像なしでリスナー(注・聞き手)を魅了できるかどうか勝負です。

「ラジオショッピンなんかでも、指輪がどんなにすごいとか、カニがどういうふうな美味しいかをルポ(注・報告)したりするわけですね。それを聞いて、ラジオのパーソナリティ(注・司会者)みたいにしゃべれたら、楽しく過ごせるんじゃないかと、漠然と思つていました」

確かに笑いをとることに成功すると、少なくともその一瞬は確実に場を支配することができまふ。④その快感は、見えない人にかぎらず、誰にとつても自信につながるものです。加えて障害について話すときには、暗い話にならないように周囲に気を使つてくれている、という優しさもあつたかもしれません。

B パスタソースの衝撃は、単に見えない人の話の巧さというだけでは説明がつきません。⑤というのも、難波さんは笑いをとろうと思つて話をでつちあげたわけではないからです。「話のための話」ではない。日々の生活の中で出会う⑥思い通りにならない状況や、どうにもならない現実を、難波さんは実際に「運試し」のようなものとして楽しんでいる。そのことを紹介してくれたまです。私たちはそこで、難波さんの「日常」を⑦垣間見たにすぎません。

「YAMAKASI」という映画をご存知でしょうか。リュック・ベッソンが脚本を書いた作品ですが、この映画には、「ヤマカシ」と呼ばれる少年七人のグループが登場します。彼らは実在のグループで、体ひとつで高層ビルをよじ登ったり、屋上から屋上へと飛び回っていく。もちろん危険が伴いますが、人工的な都会の町も、彼らの手にかかるようなグールのようなものに姿を変えます。

パスタソースや自動販売機で運試しする生き方は、あのヤマカシを思い起こさせます。物理的には同じ環境でありながら、それを全く別の方法で使いこなす痛快さ。ユクスキュル(注・ドイツの生物学者)の言葉を使つていえば、見えない人ならではの「環境世界(注・動物がそれぞれの知覚能力に応じて理解している世界)」に触れたと感じる一瞬です。

そう、彼らのユーモアは、「痛快」なのです。困難な状況をポジティブに生きていることへの感心や敬意ももちろん感じます。けれども、それだけでは笑いは生まれません。⑧やられた！ その手があつたか！ という感じ。その心地よさが笑いの原因でした。

均一なレトルトのパックや自動販売機のシステムは、言うまでもなく見える人が見える人のために設計したものです。率直に言つて、見えない人を排除しています。福祉的な視点に立つなら、C「情報」的な視点に立つなら、そうした排除は可能な限りなくしていくべきでしょう。パッケージに切り込みの印をつけるようメーカーに要望したり、自動販売機に音声案内をつけるように働きかけたりすることもひとつの方

法です。実際に、そのような製品も出回っています。

けれども、難波さんがとったのは全く別の方法です。健常者が、いわば 中身どおりのソースを pasta にかけている かわらで、難波さんはそれを遊びのツールとしてもとらえている。

いまだかつて、レトルトのパックで運試ししようと思った健常者がいたでしょうか。大都市をジャングルとして生きるヤマカシのように、自分の体に合わないデザインやサービスをナナメから見ている。そうすること、彼らの方がむしろ遊んでいるのです。

問1 部①「これ」が指す内容を「こと」に続くように二十字以内で答えなさい。

問2 部②「ポジティブに解釈しているのです」とありますが、それは何によって可能になったのですか。本文中から十字以内で探し、ぬき出して答えなさい。

問3 部③「最初に……衝撃を受けてしまいました」とありますが、このとき筆者がこのような衝撃を受けてしまった理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 視覚障害者の話に笑わされるという経験が新鮮で、筆者が無意識に持っていた先入観が覆されたから。

イ 視覚障害者が笑い話をして、場が暗くならないように気を使ってくれていることにおどろいたから。

ウ 視覚障害者の笑い話がおもしろく、自分も日常生活の中で今まで以上に楽しむことができるようになったから。

エ 視覚障害者が場を盛り上げるために、話し上手になる努力をしたことが筆者に伝わってきた感動から。

問4 空らん A C に入る言葉として適切なものをそれぞれ次から選び、記号で答えなさい。

ア なぜなら イ しかし ウ たとえば
エ あるいは オ ところで カ だから

問5 部④「その快感」とありますが、視覚障害者にとつての「快感」の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 話術を用いて人の心までも支配したという気持ちよさ。
イ 言葉によってその場の主役になったという気持ちよさ。
ウ ラジオの語りよりも笑いをとれたという気持ちよさ。
エ 人を笑わせることで注目されたという気持ちよさ。

問6 部⑤「思い通りにならない状況や、どうにもならない現実」に直面するのは、視覚障害者が日々の生活で出会うものがどのようなものであるからだと言者は述べていますか。本文中の言葉を使って「ものであるから。」に続くように三十字以内で答えなさい。

問7 部⑥「垣間見た」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア はなれて見た イ すべて見た
ウ ちよつと見た エ じつと見た

問8 部⑦「やられた!」その手があつたか! という感じ」とはどのようなことかを、本文中の言葉を使って「視覚障害者が」からはじめて六十字以内で答えなさい。

問9 空らん に入る言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「これ見よがし」に イ 「退屈そう」に
ウ 「いつも通り」に エ 「大まじめ」に

問10 本文の内容から考えられることとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 視覚障害者の「日常」は想像よりも充実しているので、健常者はその生活を邪魔しないようにつき合っていくのがよい。

イ 視覚障害者の「日常」に対する健常者の理解とは関係なく、視覚障害者はこれからも今までと同じように生活していくだろう。
ウ 視覚障害者の「日常」がどのようなものかとは関係なく、健常者は困っている視覚障害者に声をかけて手助けするべきである。
エ 視覚障害者の「日常」には健常者が知らないことがまだまだあるので、健常者は視覚障害者のことをもっとよく知るべきである。

【三】次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ぼくがずっと若い頃、主に東南アジアの貧しいといわれる国々を旅しているとき、しばしば野外で夕食を食べている家族の風景にであつた。すぐそばに粗末な木やレンガなどで作ったその家族の家らしいものが見える。でもその造りは日本ではいさぐさ物置ぐらいのものだ。①かれらは自分の家の前の道だか空き地だかわからないようなところに植物で編んだゴザのようなものを敷いて家族でごはんを食べているのだつた。

ぼくが歩いていく道のすぐ横なのでその風景は丸見えだつた。彼らが外で食べているのはたぶん家の中は食べるには狭く、暗いからだろうと理解した。その国はまだ電気が通じていない地域がいっぱいあつた。

照明にはカーバイド(注・炭化カルシウム。水と反応することでアセチレンガスが発生する)を使ったアセチレンガスランプ(注・燃えやすい気体であるアセチレンガスを用いた照明器具)などがあつたが、それを使うと燃料費がかかる。それになによりものすごい音がする。さらに季節によつては外で燃やすと虫が ほど集まってくる。だからまだ少々時間が早くても夕方の残照のなか、広い空の下で食事するほうがよいようなのだ。

その旅のだいぶあとで知った言葉だが「洗面器ごはん」という呼称がある。

やはり貧しい生活をしている人が多い国でよく見る風景なのだが、思えばそのときもたしかに洗面器ぐらいの形と大きさの食器を真ん中にして家族のみんなが円座を組んでごはんを食べていたのだ。

「手食」だつた。
つまり食器は大きなうつわがひとつで、みんな手で食べている。その地方の多くの食事はそのように洗面器ぐらいの容器にごはんをいれて、そこにたいいてい魚を煮たものを煮汁とともに②そっくりかけて食べている例が多かつた。若い頃に見たそういう食事風景はそのままアジアの「貧しい風景」に見えた。

でもそれから十年ほどしてやはりそういう貧しい「手食ごはん」を食べている国々を歩き、同じような風景を見たとき、ぼくはむかしとはつきり考えかたが変わっている自分に気づいた。

歳をとつて見るそれは「とてもいい風景」に思えたのだ。
食べているものは変わらず質素だけれど、家族みんなしてひとつの食器の中のものと同じように食べている。そこでは今夜のごはんの味についての話が必ず出ているだろうし、「もつとそこを食べろ」とか「お前はひとりで食いすぎる」などといった親と子の会話がいったい交わされていただろう。

こういう「手食」というのが「素晴らしい」ということに気がつくまで、③ぼくは旅しながら十年もの年月が必要だつたことを恥じた。

その逆の世界に自分がずつといたからだ。
たとえば、日本人が発明したインスタントラーメンは世界の飢餓を救つた、と言われるけれど、ぼくはそういうこととは別に日本人の食べ方について考えた。

欧米はもちろん、南米や、アジアの文化圏では、みんなその国なりの食器と食べ方があつた。一カ所だけはつきり違ふのはカナダ、アラスカ、ロシアの北極圏を旅したときだつた。それらの国の人々の主食はアザラ

シだったが、どこもアザラシを手で解体し、生肉を手で食べていた。ぼくも真似して食ったが、この食物は個人のナイフ以外食器はいらない。今のエスキモーの食事は風景はダンボールを部屋の真ん中にひろげ、その上に死んだアザラシの一部(といっても大家族だと半分ぐらいはある)をどさんと載せる。家族は自分のナイフを持って、アザラシのまわりに集まり各自好きなところを食べるのだ。ときどき小さい子が「ママット、ママット」(おいしい)などと言っている声が聞こえてかわいらしい。彼らの食べ方は肉片の一部を口にくわえ、小さな円弧を描いたナイフを口もとにもっていき、それで④目にもとまらぬ早さで肉をスパッと切る。くちびるを切らないかと見ていて怖いくらいである。

⑤ カナダの北極圏のポンドインレットに行ったとき、思わぬ光景に出会った。ああいう利益追求に貪欲な先進国は人口が五百人もいればスパーを進出させる。そこに住んでいる人々がそれまで一度も見なかったようなカラフルでおいしいものが並んだ夢のお城のようなものがない限りあらわれる。

彼らは乏しい生活費をそこに投じて、夢の食品を買い、今までと違う食生活の世界を知る。その結果おとずれたのは急激な超肥満問題だった。じわじわ慣らされていくより、いっぺんにやってくる糖分などの影響のほうが凄まじい。いままでも海獣の肉や血を生で食べてきたので熱で壊されなかったビタミンで十分であったシンプルな健康はいちどきに壊された。

手でものを食べるのと、食器を使って食べるということの差をわかりやすく書く。

たとえばカップ麺などには長さ十センチぐらいのプラスチックのフォークがついていることが多い。あれはそのカップ麺を一人の人間が食うたつた四く五分の時間のためだけの食器である。食べ終われば捨てられてしまう。そのプラスチックの食器は簡単には土にかえらないものだ。いわば地球のしごといゴミだ。一人がつかっただけのゴミだ。日本全国の数にしたらどのくらいの不燃ゴミになるのだろうか。

そういうことを思うようになったとき、ぼくは手食の素晴らしさに気がついたのだった。

「地球に優しい」

と、我々はよく、この耳ざわりのいい言葉を使うが、実際の行動の中でそれはどのくらい意識され、実践されているのだろうか。

洗面器ごはんを食べている人は「地球に優しい」なんて気のきいたことは言わないけれど、結果的にはこれらの習慣である「手食」ほど地球に優しい食器はない。手食の人々はかなり多い。インド、スリランカ、パキスタンなどはほぼ全域、東南アジア、中央アジア、中東、アフリカなど少なくとも十億人はいるのではないだろうか。

(椎名誠『孫物語』による)

問1 部①「かれらは……食べているのだった」とありますが、そのとき「ぼく」はこのような食事の様子をどのようなものだと感じたのですか。本文中から十一字以上十五字以内で探し、ぬき出して答えなさい。

問2 空らんに入る言葉として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア なげかわしい イ がっかりする
ウ おもしろい エ うんざりする

問3 部②「そっくり」の意味を五字以内で答えなさい。

問4 部③「ぼくは旅しながら十年もの年月が必要だったことを恥じた」とありますが、「恥じた」理由として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 若い頃の旅の中で好奇心をひかれる行為を目にしたにもかかわらず、自分で実際にやってみようと思わないで十年もの年月が経ってしまったから。

イ 若い頃から旅をしてさまざまな世界を経験していたつもりでいたが、自分のいる世界の価値観にとどまっていたにすぎなかったから。

ウ 若い頃の旅で見かけた「手食」の世界に触れて感じた悲惨さから目をそらしたまま、その後の人生をのうのうと生きてしまっていたから。

エ 若い頃に見た「手食」の光景が気にかかって以来その意味を考え続けてはいたが、自分ではその答えを出すことができなかったから。

問5 部「ない」と同じ用法の「ない」を含む文を次から選び、記号で答えなさい。

ア このゲームはおもしろくない。

イ 勝ち目のほとんどない戦いだ。

ウ 会議で良い意見が出てこない。

エ あまりにもそつけない対応だ。

問6 部④「目にもとまらぬ早さで肉をスパッと切る」とありますが、それを見た時の「ぼく」の気持ちほどのようなものでしたか。適切なものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 心配

イ 歓喜

ウ 恐怖

エ 同情

問7 部⑤「カナダの北極圏のポンドインレットに行ったとき、思わぬ光景に出会った」とありますが、ポンドインレットの状況を見たときの「ぼく」の気持ちとして最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 北極圏の小さな町にまで出店して利益を上げようとするスーパーに強い怒りをおぼえた。

イ 珍しい食品に目を奪われて自分を見失った生活を送ってしまった人々に失望した。

ウ 北極圏の生活を襲った変化に巻き込まれてしまっている人々の様子を見て不安を抱いた。

エ 現地の人々の食生活や健康を破壊してもなにも反省しない先進国の態度にあきれた。

問8 「ぼく」は「手食ごはん」をどう評価していますか。本文中の言葉を使って(1)・(2)についてそれぞれ指定の字数で説明しなさい。

(1) その食事の光景について。(45字以内)

(2) その食べ方がもたらす効果について。(30字以内)

問9 部「手食の人々はかなり多い」とありますが、ここから「ぼく」が言おうとしていることは何だと考えられますか。最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 「手食」との対比で自分たちの豊かな食事のあり方を意識し、食の本質を考えようということ。

イ 「手食」が持つ意味を理解して、自分たちの生活における問題点について見直そうということ。

ウ 「手食」の段階にある貧しい人々が世界にはまだいることを知り、自分たちにもできることを探そうということ。

エ 「手食」という食事の仕方が世界的に広まっていることに触れ、自分たちも実践し、広めようということ。

問
9

I	H	G	F	E	D	C	B	A